

MOVE!

子どもが動く授業へ

組織的に動く学校へ

平成27年度
佐伯教育事務所通信

NO.9

発行者 米持 武彦
編集者 姫野 賢一
平成27年5月22日

学校訪問シリーズ その1

青山小学校 下堅田小学校
八幡小学校 彦陽中学校

5月14日(木)より第1回目の学校訪問が始まりました。
本年度は「MOVE」の中で、学校訪問シリーズとして紹介します。特に、佐伯教育事務所の重点目標に沿って、訪問校の様子から特筆すべきことを報告していきます。

「組織的に動く学校」への改善・充実の取組

観点6. 重点目標の達成を担う主任等を明らかにし、責任を与える取組については

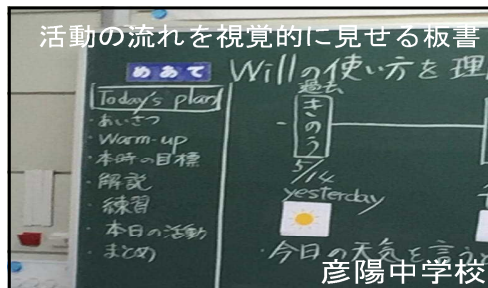
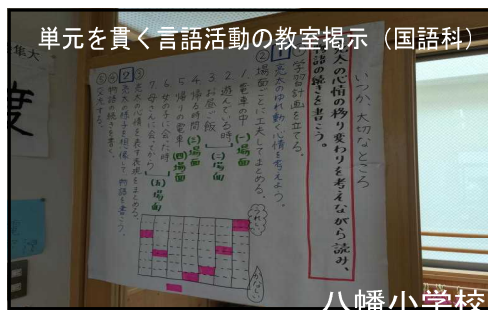
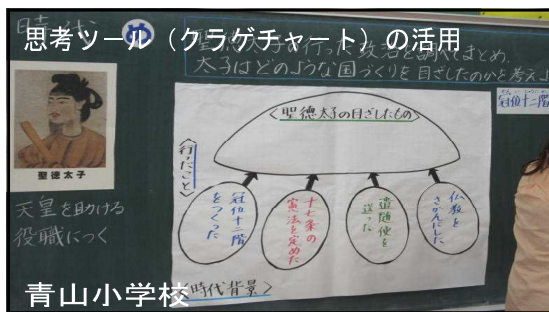
- 【下堅田小】主任は、新たな課題についての取組や指標を部会で職員に検討させる。
- 【八幡小】教務主任と研究主任は、学校運営のミッションに責任をもつ。
- 【彦陽中】重点目標の重点的取組に沿って主要主任を配置し、取組の徹底と評価を行う。

観点7. 意思決定がより効率的・効果的に行われ、周知・徹底する取組については

- 【青山小】小規模校の場合、職員会議はもたず、運営委員会で周知徹底をはかる。
- 【下堅田小】軽微な文書は、職員朝会や前面、背面黒板で周知する。
- 【八幡小】運営委員会で決まった事は、共有フォルダを活用して周知している。

「子どもが動く授業」への改善・充実の取組

各学校で、児童生徒の力や意欲の向上に向けた授業展開が見られました。



【今回のポイント】
○達成指標に授業改善の状況を！
全校とも重点目標に学力向上を掲げ、各校の喫緊の課題として受け止めています。
しかし、達成指標を見ると年1回の各学習状況テストや各種評価テストの到達度割合になっている場合がほとんどです。
「芯の通った学校組織」は、学校が目標達成に向けた組織的な取組を進めることで、子どもたちの力と意欲の向上を図ることを目的としています。

学校の教育活動の中心は授業であり、授業における目標や指標を具体的に決め、結果的に確かな学力が培われていきます。

<授業改善のよい指標例>

児童、生徒の意識調査をもとに思考ツールを活用した学習活動を取り入れることにより「自分の考えがよく出せる」割合を80%にする等